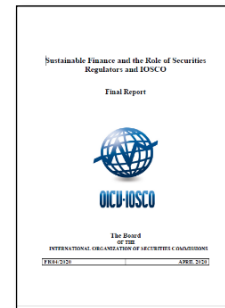


IOSCO報告書「サステナブルファイナンス及び証券当局とIOSCOの役割」

- 2020年4月、証券監督当局の国際的な集まりであるIOSCO（証券監督者国際機構）は、サステナブルファイナンスに関する市場関係者、各国当局の取組みについてまとめた報告書を公表。
- IOSCO内にタスクフォースを設立し、今後取り組むべき課題として、①サステナビリティに関する開示の比較可能性の向上、②関係国際機関（NGFS^(注1)等）との連携、③市場の透明性及び投資家保護にかかる課題の事例分析、の3点を提示。



報告書の概要

（1）背景

- 気候変動やESG関連のリスクが与える財務的影響の重大性に関する認識の高まり
- 持続可能な経済発展への移行において、金融システムが果たす役割の高まり 等

（2）各主体の取組み

- 規制当局：開示による透明性向上を通じたサステナブル投資の促進、グリーンウォッシング^(注2)の防止 等
- 市場関係者：サステナビリティに関するガイドラインや基準への準拠、様々な形式でのサステナブル情報の開示 等
- 第三者主体：開示フレームワーク、グリーンボンド原則の策定 等

（3）調査結果

- 規制当局・市場関係者に共通する課題として以下を指摘。
 - サステナビリティに関する多様な基準の乱立
 - サステナブル活動の定義の欠如
 - グリーンウォッシングなど投資家保護の問題

（4）今後の方向性

- IOSCO内にタスクフォースを設立し、今後取り組むべき課題として以下を提示。
 - 開示枠組みの基準設定主体等とのエンゲージメントを通じた、サステナビリティ開示の比較可能性の向上
 - 関係国際機関（NGFS等）との連携を通じた、規制・監督上のアプローチに関する重複回避や一貫性及び整合性の向上
 - 市場の透明性及び投資家保護にかかる課題の事例分析（ESG格付けの透明性の向上やグリーンウォッシング 等）

(注1) NGFS(Network for Greening the Financial System)は、気候リスクへの金融監督上の対応を検討するための中央銀行及び金融監督当局の国際的なネットワーク。2017年12月に設置。

(注2) 企業や商品が実際よりもサステナブルであると見せるために、誤った印象やミスリーディングなサステナブル情報を与えるプロセスのこと。